

複製・転載禁止

本資料に含まれるすべての内容（文章・画像・デザインなど）の無断転載、複製、配布、改変、または二次利用を固く禁じます。本資料を使用する場合は、事前に許可を得てください。

ISO 56002 イノベーション・マネジメントシステム 2023年度 活動実績と第三者機関評価

2024.7.26 アドバンス電気工業 開発部 開発課

作成： 2024年7月26日
アドバンス電気工業(株) 開発部 開発課 笹尾起美仁

文書管理： Doc.240726sa-2 2023年度 活動実績と第三者評価（2024年7月26日）

1. Introduction イノベーション活動と新しい産学連携のかたち

背景：

アドバンス電気工業株式会社は、2023年7月にイノベーション・マネジメントシステム（IMS）のガイダンス規格であるISO 56002に準拠し、総則として『**イノベーションマニフェスト**』を策定しました。この『イノベーションマニフェスト』は、イノベーションを体系的かつ効果的に推進するための指針となります。さらに、2024年に発行予定の認証規格ISO 56001の取得を目標に、組織全体で活動を展開していきます。

イノベーション・マネジメントシステムに対する第三者的視点の導入について：

当社のマネジメントシステムについて、**MOT（技術経営）教育**を推進する**名古屋工業大学産業戦略デザインコースの教員および学生**の皆様にご評価いただく機会を設けました。この取り組みを通じて、率直なフィードバックをいただき、マネジメントシステム開発段階では想定していなかった課題について、多くの気づきを得ることができました。今後も**産学連携**により、マネジメントシステムのさらなる改善と進化を図ってまいります。

2. Scope イノベーション・マネジメントシステムの適用範囲

対象部門：

アドバンス電気工業株式会社 開発部 開発課

対象となる事業所：

アドバンス電気工業株式会社 R&Dセンター 愛知県春日井市神屋町熊野上1139-1

IMS年度（適合審査対象期間）：

2023年度 （2023年7月27日～2024年7月26日）

対象製品・対象事業分野：

対象製品：流体制御機器

対象事業：エレクトロニクス分野、ライフサイエンス分野の新規事業

3. Manifesto イノベーションマニフェスト

イノベーションマニフェスト：

アドバンス電気工業のイノベーション活動の方針や意図、スキームを 関係者に知らせるための文書です。

マニフェストは、組織がイノベーション・マネジメントシステムや活動を支援するための方法を体系的に記載した文書化した情報です。

ISO56002（2023年7月現在）に準拠したルールブックとして機能するとともに、適合性評価の基準となる重要文書です。

アウトライン：

イノベーション・マネジメントシステムは下記で構成されています。

- ・ナレッジベースドマネジメント
- ・プロジェクトマネジメント
- ・デュアルシステム
- ・デベロップメントマネジメント
- ・プロダクションマネジメント

4. Conformity assessment 適合性評価

第一者適合性評価活動：

アドバンス電気工業 開発部 開発課 知的財産ユニットが 年1回内部監査を実施し、国際規格 ISO56002 に適合していることを「適切な適合評価活動の結果」に基づいて客観的に適合性評価します。

第三者適合性評価活動：

名古屋工業大学 産業戦略デザインコース（技術経営MOT）の教員に年度重点課題に関連する活動について意見をいただきます。

* 2023年度の重点課題

イノベーション活動におけるデザイン思考の活用を掲げます。

これは、課題を深く理解し、ユーザーのニーズに焦点を当てたプロセスを通じて、創造的なアイデアを発掘し、現場での実行可能な解決策を開発することを目的としています。

5. Activities and Achievements 活動と実績

現在、開発部では新製品の開発と新規事業立ち上げを進行中です。

システム（国際規格）からイノベーションを生み出すのではなく、今起きているイノベーションをケーススタディとして学び、そのエッセンスを共有し、マネジメントシステムを更新しました。また、内部監査によりISO56002の適合性を確認しました。

2023年度の取り組み	ISO56002 条項
新製品開発・新規事業の立ち上げ	活動（第8章）活動のプロセス確立と実行
ケーススタディを活用して学びの共有	知識管理（第7章）知識の共有と学習プロセスの促進
実践から学び、改善	パフォーマンス評価（第9章）活動の結果を評価する
背景や現在の取り組みをシステム化	システムの計画（第6章）組織の方向性と目標設定に基づくシステム構築
メンバー間でのエッセンスの共有とルールへの適用	リーダーシップ（第5章）効果的なコミュニケーションとエンゲージメント

6. Third-party opinion document 第三者機関の意見

名古屋工業大学 産業戦略デザインコース（技術経営MOT）の教員Iに2023年度重点課題である『**イノベーション活動におけるデザイン思考の活用**』について意見をいただきました。

デザイン思考の活用について

『コンセプトの創造』（アイデアの創出）に続き、『スケッチを用いたプロトタイピング』して早いサイクルで『検証』していることは評価できる。

『**コンセプトの創造**』が属人的になっているので 次の『次のスケッチを用いたプロトタイピング』のプロセスで “ファシリテーショングラフィック” を用いて共有し、『**共感**』の**プロセス**につなぐと良いだろう。

インフラについて

名古屋工業大学内のアドバンスの研究室は “**リビングラボ**” となっている。

このようなイノベーション活動の**インフラ**は従業員の**エンゲージメント**にもつながる。

7. Non-verbal evidence

『スケッチを用いたプロトタイピング』



『ケーススタディを活用して学び』

	新製品A事業 (新製品×既存市場)	新製品B事業 (新製品×既存市場)	C事業 (新製品×新市場)	新製品D事業 (新製品×新市場)
新製品A事業 (新製品×既存市場)	○	○	○	○
新製品B事業 (新製品×既存市場)	○	○	○	○
C事業 (新製品×新市場)	○	○	○	○
新製品D事業 (新製品×新市場)	○	○	○	○